

能登 いまい農場だより 3月号

お買い上げ頂き、ありがとうございます。

梅の花が咲き始めています。つい先日まで、田んぼで翼を休めていたコハクチョウの群れも北へと旅立ち、日一日と春の気配が感じられるようになりました。

皆様いかがお過ごしですか？

■春作業

雪解けした田んぼでは、土壌水分が有る間に、あぜ塗り作業をしています。トラクターに装着した機械で行うのですが、水が有りすぎても、土が上がりすぎず、水気が無くなっていても、うまく鎮圧出来ないのです。土作りで熔リン散布や、耕起作業もあり、忙しくなってきました。

パイプハウスの新設も行う予定です。ハウス資材も届き、少しずつ取りかかっています。

■普及活動年度末評議会

石川県内には地域ごとに、5つの農林総合事務所と、農業総合研究センター（農業試験場）があり、農業改良普及員がそれぞれに配置され、農業振興のため、働いておられます。私の管内では、中能登農林総合事務所があります。県から委嘱され、普及協力員ということで、普及活動年度末評議会に参加しました。農家の他に、行政からと、農協からもそれなりの役職に就いておられる方が出席されます。県で行っている農業行政、稲作、野菜、花卉、果樹などの技術普及のほか、農業後継者の支援等の報告もありますし、次年度に向けての目標も示されます。

私は、世界農業遺産の認定地に日本で初めて、能登と佐渡が選ばれて5年が経過、その間、熊本阿蘇地域や岐阜長良川流域など全国で新たに6カ所が選ばれ、それぞれ地域の農業振興、活性化に頑張ろうとしている。そのなかで、私の住む能登の農業振興はどうだろうか？米の業界紙の流通価格を例にして、佐渡米と、石川米の価格差を指摘して、検証するよう提案しました。佐渡は「トキを育む環境米」として人気も定着。かたや能登の米はどうか？能登の米として上場すら出来ないのは、せっかく世界農業遺産認定してもらっても活用できないのでは？など話しました。

■香ばし米つぶ

裏面に金沢での販売の様子が北陸中日新聞に載せていただきましたので、貼付しました。

150g入りで、800円で販売予定です。（右が商品写真）

同日の民放テレビの地方ニュースにもインタビューして頂き、放送されました。ラッキー！

試供品を80gですが同送しました。早めにご試飲、お召し上がりください。

ご感想を頂ければ幸いです。

かきもちを同送しました。運送途中で割れていたらご容赦ください。



開発した農産加工品販売

めいてつ・エムザ 6次産業化へ農業者



買い物客に商品を手渡す受講生＝金沢市武蔵町で

県内の農業者が、自らの農作物で開発した加工品を販売するイベントが十日、金沢市武蔵町のめいてつ・エムザで始まった。十九日まで。

いしかわ農業総合支援機

県内の農業者が、自らの農作物で開発した加工品を販売するイベントが十日、金沢市武蔵町のめいてつ・エムザで始まった。十九日まで。自身の商品をPRした。

いまい農場(中能登町)の今井耕平さん(三三)は、自らが育てた玄米をいった「香ばし米つぶ」を出品。「化学肥料を使わず、環境を大事にしながら育てた米で作った。お客さんの生の声が聞こえるのでいいですね」と話し、買い物客に商品の玄米を使った玄米茶の試飲を呼び掛けていた。

塾は、農業者が収穫した作物を自らが加工し販売する「六次産業」を推進することで、農業の担い手を確保し、収入を安定させるのが狙い。取り組みは今期で六年目で、マーケティングや商品デザイン、接客方法などを学ぶ。

(岡本真穂)